

令和6年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：胆振地区
- 2 事例報告学校名：安平町立追分小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 松尾 康
- 4 キーワード：地域の教育資源を活用した総合的な学習の時間

1 はじめに

安平町追分地区は胆振地方の北東部に位置し、かつては鉄道の要衝として発展し、現在は水稲、酪農、メロンなどの農業や競走馬の生産が盛んな自然豊かなまちである。

本校は今年度開校130年目を迎え、8学級（特2）、111名が在籍している。保護者や地域住民の教育に対する関心は高く、学校教育や社会教育に対してとても協力的である。



2 地域の教育資源を活用した総合的な学習の時間の展開

総合的な学習の時間では、児童一人一人の興味・関心に応じた学習活動の実現に向け、地域の素材や学習環境を積極的に活用することが期待されており、このような学習の実現に向けては、多様な外部人材と連携・協働した取組を進める必要がある。

こうした中、安平町では様々な資源（人・知・自然・施設）とつながったふるさと安平町を体感できる学習活動が行えるよう、町教育委員会の社会教育担当者をコーディネーターとして配置し、学校及び地域人材などと連絡・調整する体制を整えている。

本校ではコーディネーターの協力を得ながら、地域の教育資源を活用した総合的な学習の時間の指導計画を作成し、外部人材と協働した教育活動を進めている。



道の駅あびらD51ステーション

(1) コーディネーターとの連携

外部の教育資源を活用して学習活動を行う際には、協力してくれる地域の方々や施設などの置かれている立場や状況をしっかりと把握しておくことが大切である。

コーディネーターが事前調整や依頼業務を担ってくれるとともに、定期的に来校し各学級担任ときめ細かな打合せを行ってくれることで、各学年の取組を円滑に進めることができている。

(2) 各学年の取組

① 3年生（単元名：ふるさと追分 学校の動輪の秘密を調べよう！）

校地内に保存されている蒸気機関車の動輪のモニュメントから、追分と鉄道の関係について調べ、地域の環境について考える活動である。

「道の駅あびらD51ステーション（鉄道資料館）」、「JR追分駅」を見学し、専門スタッフからの説明やインタビュー、他者に伝える活動を通して、機関区として重要な役割を担った追分のまちについて理解を深める取組になっている。



動輪モニュメント



道の駅内「鉄道資料館」



道の駅内「鉄道資料館」

② 4年生（単元名：知ろう！いろいろな仕事）

安平町の特産品や基幹産業から、まちを支える多様な職業や仕事に関心を持ち、自分の将来について調べ、考える活動である。

「メロン畑・選果場」、「競走馬の生産牧場」を見学し、生産者からの説明やインタビュー、他者に伝える活動を通して、まちを支える産業や仕事について理解を深め、働くことの意義について考える取組になっている。



メロン畑



選果場



競走馬の生産牧場

③ 5年生（単元名：めざせ！お米マイスター！）

地域で身近に行われている米作りから、米作りの1年の流れと作業内容について体験し、自分の生活との関係について調べ考える活動である。

「稲作農家」と連携し、田植えから生育観察、収穫（稲刈り）、脱穀・精米までの米作りの体験、他者に伝える活動を通して、米作りに関わる方々の苦勞や願いについて理解を深め、自分の食生活についてできることを考える取組になっている。



田植え



収穫（稲刈り）



脱穀・精米

④ 6年生（単元名：遊び場プロジェクト）

地域の交流の場として利用されている「ガンケ山」を題材に、多くの人が遊ぶことのできる場や遊具について考え、制作することを通して地域に貢献する活動である。

「地域おこし協力隊」などの協力メンバーから現地で活動内容の説明や遊具制作のアドバイスを受け、技術支援を受けながら遊具を制作し、それを他者に伝える活動を通して、ものづくりの楽しさを体感したり、地域の方と交流したりすることができる取組となっている。



コーディネーターによる  
オリエンテーション



ガンケ山散策



遊具の制作

3 おわりに

地域の素材や学習環境などの教育資源を積極的に活用したり、児童が地域の一員として地域の方々と一緒に活動したりすることで、地域社会と共にある学校づくりが実現されると思われる。

今後は、育成を目指す資質・能力について共有し、より一層の外部連携を目指していきたい。